

TOYO GOSEI

CSR REPORT 2017

Corporate Social Responsibility Digest





TOP MESSAGE

独創的な技術で素材にイノベーションを起こし、 人類文明の成長に貢献します

私たち東洋合成工業は、1954年の創業から63年間、医薬品用化学製品の製造・精製からはじまり、独創的な視点からの研究開発を生命線として、さまざまな製品や技術をお届けしています。現在では、世界各国で特許を取得するなど、トップクラスの実績を持つ化学メーカーとなり、輸出先は世界26カ国におよび、海外売上高比率も36%に達しています。

2016年、世界経済は米国の新政権の動向や欧州の政治情勢不安、中国・新興国の停滞など不確実な要素が多く、当社も上期は急速な円高に苦戦しました。しかし、下期以降、アメリカを中心とした景気回復や電子材料分野における中国の投資が加速したほか、半導体・液晶工場で新世代製品の生産が増加しはじめたことが寄与し、急速に回復させることができました。化学業界においては、当社が取り組んできた機能性化学品、香料、半導体、そして、フラットパネルディスプレイ、ケミカルロジスティクスの領域で、性能の進化が顕著化しています。これまで当社は、お客様の要求品質基準に対して、高い品質を提供しており、一部で過剰スペックとさえ

評価されてきました。しかし、昨今、半導体の性能が限界値に近づき、スマートフォンをはじめ、より高精細な製品が求められるようになったことで、今まで蓄積してきた品質面での優位性がお客様の必須スペックになり、更なる競争力が発揮できる環境になってきています。今後は、この品質の優位性を保つことはもちろん、独自技術による製品・サービスの提案を増やし、お客様にとって必須なサプライヤーであるという認識をより高めていただき、信頼を深めていきたいと考えています。

多様化、複雑化する世界と、 社会に対して企業が果たすべき役割

事業を進めていくうえで、企業に求められる社会的責任は間違いなく拡大しています。国際社会やステークホルダーの視点からも、SDGsの重要性やパリ協定、ESG投資など、取り組むべきCSR課題は非常に多岐にわたると考えています。

私たちの経営理念「人類文明の成長を支えるため、人材・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるためにも成長する」には、戦後の資源が乏しかった日本において、付加価値を創造するという創業の精神が込められています。技術や製品で世界の人々の役に立ち、人類の豊かさに貢献すること、人々が未来に夢を持って幸せに働ける環境をつくること、事業を通して世界の発展に寄与することなどを目的としたこの理念は、60年以上経った現在も変わることなく、当社のCSRの基盤となっています。当社は、この考えを基にCSRを推進するうえで、「安全の確保と環境への配慮」「日本の成長の一翼を担う素材産業としての責任」「人々の生活を支え、未来をつくる責任」の3点を重要課題と捉え、取り組みを進めています。

まず「安全と環境」については、化学メーカーとして最も重要であると認識しています。従業員、協力会社の皆様、地域住民の皆様をはじめ、関連するすべての人の安全を最優先し、さらに化学物質の環境への影響については、そこが脅かされれば自分たちの存在意義が脅かされると同義であるという考えから、万全の安全対策を行っています。

次に、「素材産業としての責任」については、社会全体で求められている素材開発自体をイノベーションの起動力にするという期待に対し、製品と技術力でお応えしていくことです。産業革命以降、人間はエネルギーを自由に手に入れられるようになりましたが、それを分子レベルで高性能化しようというのが現代のテーマです。大容量で軽い記憶媒体、各種デバイスの軽量化、長持ちする電池、より綺麗な表示デバイスなど、全てがミクロな領域のコントロールによって高性能化を志向しており、こういった分野のイノベーションを実現することが、省エネルギーで調和のとれた持続可能な社会を実現するための素材産業の重要な役割だと考えています。

もうひとつは、「人々の生活を支え、未来をつくる責任」についてです。地球の成長の限界の観点から言えば、食糧危機

や水資源の問題、地球の人類の許容限界といった課題に解答を出していくのは、バイオテクノロジーや生化学、あるいはベースとなるケミカルリアクションであり、当社の事業は現代文明の課題解決への寄与が大きいと考えています。

すべてのパートナーと信頼関係を築きCSRを推進する

企業のあるべき姿は、社会の役に立ち、人から感謝され、従業員のやりたいことと合わせ、それらの対価としてお金をいただくことです。ただし、夢や希望を実現するためには、能力開発が絶対に必要です。そして、私たちが志向するイノベーションを起こせる人材を育てるためには、適切な人事制度や教育システムが重要になります。当社では、少子化で人材の採用も難しくなるなか、これから何十年も活躍していただく人材を確保するために、昨年、評価を中心とした大きな人事制度改革を行いました。また、グローバル化が進む社会では、ダイバーシティは極めて重要です。現在でも、国籍、性別、年齢は一切問いませんが、今の人員構成は必ずしもそうはなっておりません。それは採用条件や働かれる方々の志向による側面も多く、さまざまな施策によって解決し、完全なるダイバーシティを目指します。

私たちは、多くのステークホルダーの皆様を支えられています。お客様、地域社会の皆様、従業員のご家族、投資家の皆様、金融機関など、本当に皆様への感謝の気持ちでいっぱいです。負託を受けているという認識で事業を行い、皆様に貢献するために存在する会社でありたいと考えています。

2017年11月

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長
木村有仁

会社概要

社名 東洋合成工業株式会社
本社所在地 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL：03-5822-6170(代表)
設立 1954年(昭和29年9月27日)
資本金 1,618百万円
従業員数 560名

事業内容

- 1.有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
- 2.画像形成用の感光性材料の製造並びに販売
- 3.電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
- 4.電池材料並びに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売
- 5.酵素蛋白、細胞を特定形状化するための感光性樹脂の研究開発、応用品の製造並びに販売
- 6.倉庫業(液体化学品の保管管理)
- 7.貨物運送取扱業

編集方針

本レポートでは、2016年度のCSRの取り組みを私たちが重要と考える課題ごとに、分かりやすくステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的としています。Web版では、全体像をご理解いただけるようデータとともに詳しく報告しています。 <http://www.toyogosei.co.jp/csr/>
対象期間 2016年4月1日～2017年3月31日
(報告の一部に、2017年4月以降の活動と取り組み内容も含まれます)
対象範囲 東洋合成工業株式会社

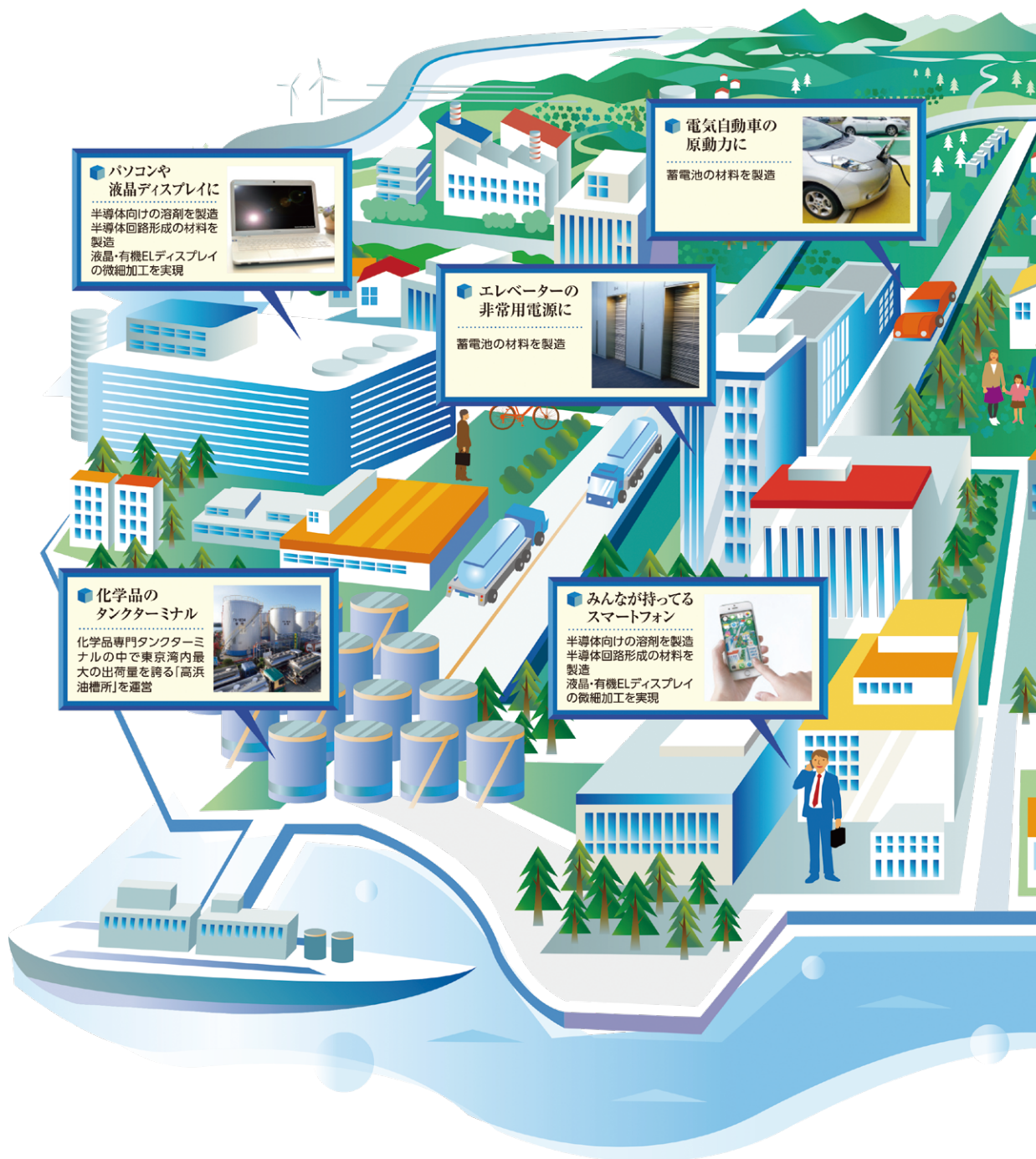
Contents

- 1 トップメッセージ
- 2 編集方針
- 3 暮らしの中の東洋合成
- 5 東洋合成工業のCSR
- 7 化学メーカーとしての責任(安全・環境)
- 9 素材産業としての責任(品質マネジメント・労働安全衛生)
- 11 人々の未来を支える責任(研究開発・社会貢献)
- 13 人材・ダイバーシティ

暮らしのなかの「東洋合成工業」

皆様の暮らしのなかには、東洋合成工業の製品・サービスが活かされています。

パソコンやスマートフォンなどの電子機器、省エネルギーに役立つ蓄電池やLED照明、医療の発展に向けた研究開発などへ、みなさんの安心、便利、快適を支える製品を提供し続けるよう東洋合成工業は歩みを進めています。



沿革



- 1954年 9月 麻酔薬などの医薬品用化学製品の製造ならびに精製を目的として、東京都江戸川区江戸川3丁目13番地に日本アセチレン化学工業株式会社設立(資本金1,000千円)、工場を本社所在地に設置
- 1956年 東京都江戸川区小松川へ本社移転
- 1961年 5月 商号を東洋合成工業株式会社に變更
- 1963年 1月 千葉県市川市に新工場竣工、工場移転、酢酸エステル製造開始
- 1971年 2月 東京都中央区に東京営業所開設
- 1971年 8月 千葉県市川市に本社を移転
- 1971年 10月 千葉県市川市に高浜油槽所を開設、化成品タンク保管業務開始
- 1981年 7月 市川工場内に感光性材料製造施設完成、感光性材料の製造開始
- 1982年 9月 千葉県船橋市に感光材研究所を開設
- 1985年 10月 高浜油槽所にLPG用タンク3基完成、LPGの委託保管業務開始
- 1988年 9月 千葉県香取郡に感光性材料製造を目的とする当社全額出資の千葉東洋合成株式会社を設立(資本金200,000千円)
- 1989年 11月 千葉東洋合成株式会社感光性材料製造工場(現 千葉工場)完成
- 1993年 5月 市川工場感光性材料製造部門「ISO9002」取得
- 1994年 5月 市川工場「ISO9001」取得
- 1995年 10月 市川工場化成品製造部門「ISO9002」取得
- 1996年 4月 高浜油槽所「ISO9001」取得
千葉東洋合成株式会社及び東正産業株式会社を合併、千葉工場、高浜油槽所「ISO9002」取得
- 1996年 11月 千葉県印旛郡に新研究所完成、感光材研究所移転
- 2000年 3月 日本証券業協会に店頭登録(現東京証券取引所 JASDAQ 市場)
- 2001年 1月 千葉工場に第三感光材工場完成
- 2002年 7月 市川工場「ISO14001」取得
- 2002年 10月 食品添加物製造設備の新設
- 2004年 6月 環境レポートの作成・公開
- 2004年 9月 創業50周年
- 2004年 12月 千葉工場にイオン性液体生産設備完成
- 2005年 4月 オランダ・ロッテルダムに物流拠点設置
千葉工場「ISO14001」取得
- 2006年 5月 千葉第二工場完成
- 2011年 4月 本社及び営業所を東京都中央区日本橋に移転
- 2012年 5月 千葉県香取郡東庄町に香料工場竣工
- 2013年 4月 兵庫県淡路市生穂新島に淡路工場竣工
6月 本社及び営業所を東京都台東区浅草橋に移転
- 2013年 10月 本社と千葉工場、事業継続マネジメント規格ISO22301認証取得
- 2014年 1月 淡路工場「ISO9001」取得
- 2014年 4月 淡路工場「ISO14001」取得
- 2015年 10月 中国、上海事務所設立

東洋合成工業の事業とCSR

私たちの経営理念には、戦後の資源の乏しい日本において、付加価値を創造するという創業の志がこめられており、技術や製品で世界の人々の役に立ち、人類の豊かさに貢献すること、人々が夢を持って幸せに働ける環境をつくること、事業を通じて世界の発展に寄与することを目的とした姿勢は、60年たった現在でも変わることなく、この理念が当社のCSRの基盤となっています。

経営理念

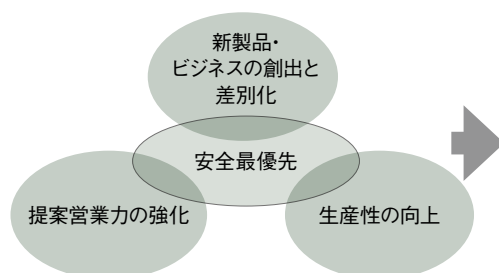
東洋合成工業は、人類の文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるためにも成長する。

経営方針

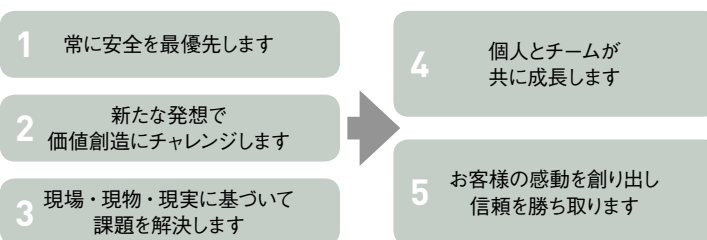
1. 安全操業を最優先し、従業員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保する。
2. 法令や社内ルールを遵守するとともに、誠実かつ公正な企業活動を行う。
3. 世界最高のマイクロストラクチャー構造材料を国際社会に提供する。
4. 常に新製品、新プロセス、新サービスを開発する。
5. 生産技術の高度化を推進し、新プロセスを開発、安定品質で市場競争を勝ち抜く。
6. 国内外隔たりなく企業活動を展開し、日本を代表するグローバル企業となる。
7. 全社をあげて、常に能力開発に努め、個人の能力の向上を通じて創造性を発揮し、社会に貢献する。

行動指針

当社の事業方針



業務遂行方針



社名にこめられた思い



「化学合成技術を礎に、アジアからグローバルに貢献する事業を立ち上げたい」

戦後復興期にあった日本は資源に乏しいものの、貿易立国であったことを活かして付加価値を創造できる産業を興そうと、科学技術立国としての発展を目指していました。

「東洋合成工業」という社名は、創業から7年後の1961年、事業拡大とともに、それまでの「日本アセチレン化学工業株式会社」から変更された社名です。「合成」とは、「A」と「B」という、比較的簡単な化合物から化学反応により、さらに複雑な化合物「C」をつくることを言い、現在の社名には、科学的な合成技術で新たな価値を創造し、アジアの雄を目指して世界に貢献したいという思いが込められています。以来、東洋合成工業は、半世紀以上にわたり、独創的な視点で、新たな価値を創造する企業としてグローバルに発展し続けています。

ステークホルダーとともに、事業を通じて社会に貢献する

新しい価値の創造に向けた化学工業に対する期待は、世の中で高まっています。
その実現のために私たちは、安全操業を第一として、研究開発、品質管理、事業継続性などの着実な事業運営をおこない、
新たな発想から価値を創造することで人類文明の持続可能な発展に向けて貢献していきたいと考えています。
私たちは、人財、創造性、科学技術を核として、未来社会の創造に経営理念の実現を通して貢献していきます。

地球環境の改善、人類文明の成長に貢献



化学メーカーとしての責任 安全・環境

東洋合成工業は、安全操業を最優先し、社員、協力会社社員、地域住民など関係者の安心できる操業環境を確保し、人々や環境にとって持続可能な製品を開発していく使命があると考え、取り組みを進めています。

安全

東洋合成は安全操業を最優先し、会社で働く人々、地域にお住まいの皆さまなど、関係者の安心できる操業環境を確保します。

安全方針

1. 「常に安全を常に優先します」を念頭に、全社員が一丸となって安全衛生活動を推進します。
2. 人命尊重の理念の下、必要な社内基準を設け、法令を遵守し、安全で働きやすい職場環境の創造を目指します。
3. 良好なコミュニケーションを社内・社外で展開し、社内外の関係者の安全と健康の確保に貢献します。
4. 全従業員がそれぞれの立場で職場に潜む危険源の把握に努め、リスク低減に貢献します。

安全啓蒙活動の実施

進化のための連携

化学メーカーの責任として、安全操業は絶対に譲れない基本です。私たちの事業活動は危険物を安全に扱えるスキルによって成り立っているからです。当社では、従業員はもちろん、工場内で作業を行う協力会社の皆様も含めたすべてのスタッフが、安全に対する高い意識を共有することが重要だと考えています。その活動の一つとして社員が自ら調査・企画し、他の社員や関係者に安全について教育する「安全啓蒙活動」を各事業所で定期的実施しています。教える側は仲間に伝えるためにより深く積極的に学習し、受ける側は毎日の作業に直接関係する安全の話題を身近な仲間から伝えられることで双方にとって効果的な安全教育活動となっています。



執行役員 環境安全部 部長
中渡 孝

TOPICS

安全パトロール

研究所を含めた全事業所で、毎月安全パトロールを実施しています。パトロールには事業所内の各課が相互で行うもの、事業所を超えて他事業所のメンバーが複数参加し相互に行うもの、トップマネジメントが参加するものなど、多彩な活動となっています。様々な視点によるパトロールを実施することでより効果的、実質的な改善につながる活動を目指しています。



救急救命講習

非常時に備え、各事業所では消防の協力を得て救命講習を実施しています。また事業所にはAEDを設置し、使用方法を「安全啓蒙活動」などの機会を通じて、教育、訓練しています。

静電気講習

当社の製品の多くはその製品中に含む金属が非常に少ないことが大きな特徴となっています。そのために金属との接触を避ける生産工程となり、静電気帯電も起こりやすくなります。帯電は有機溶剤などに対して着火のリスクがありますので、私たちは産業安全技術協会の静電気エキスパートの資格者を複数名確保して、設備の対応、作業の方法について検討し、静電気帯電によるリスクの封じ込めを行っています。その静電気安全の管理を確実なものとするために「安全啓蒙活動」などの教育の機会に静電気エキスパートを含む社員自らが静電気安全教育を実施するとともに、産業安全技術協会の専門家を招いての講習会も定期的に毎年開催しています。

OSHMS

危険物を扱う当社は事故を未然に防止するためにOSHMSを導入し、職場のリスクアセスメントを実施し、リスクの低減を図るなどの活動をしています。

※OSHMSとは：労働安全衛生マネジメントシステムの頭文字で、継続的な安全衛生管理を自主的に進めることにより、労働災害の防止と労働者の健康増進、さらに進んで快適な職場環境を形成し、事業場の安全衛生水準の向上を図ることを目的とした安全衛生管理の仕組みのこと



環境

東洋合成工業株式会社は電子部品製造用材料の生産、調合香料用材料の生産、化学製品の生産に使う溶剤のリサイクル、液体石油化学品の省エネルギー物流等を通じて社会に貢献します。私達はこの企業活動で地域社会が負う環境負荷が最も低く抑えられるよう努めます。会社の活動が地球環境の改善に貢献できるように指向します。

環境方針

目標 環境保全と安全操業を経営の重要課題と位置付け、各事業所は内に向かっては「社員の安全と健康」を、外に向かっては「地域環境の保全」を念頭に企業活動を推進します。

法の遵守 環境保全の諸法令を遵守し、地域の住民の声にも耳を傾けるように全従業員に徹底します。

溶剤リサイクル事業

最先端のリサイクルテクノロジーで 地球環境の保全に貢献

当社は、60年以上培った技術を活かし、混合された廃溶剤、VOC(揮発性有機化合物)等を回収し、蒸留精製することにより、溶剤別にバージン溶剤同様に再生する最先端リサイクルテクノロジーを確立。電子材料向け高純度溶剤の合成・精製ならびに使用済み溶剤を回収し、精製分離する溶剤リサイクル事業に取り組んでいます。自動車、電機、電子、塗料、医薬・農薬と幅広い業界のリサイクル実績があり、資源の有効活用と地球環境の保全にも貢献しています。



常務取締役 化成品事業部 事業部長
出来 彰

TOPICS

大気・水質

市川工場、千葉工場および香料工場合計で、SOxは前年度比約9%の増加、NOxは約4%の増加となりました。市川工場では、COD負荷は37%減少しました。排水基準値を順守し、廃棄物として外部処理していたものから選別し自社廃水処理場で処理をすることで、産業廃棄物の減量化を継続しています。また千葉工場においても、TOC計(全有機体炭素計)のほか、GC-MSを導入し、排水処理管理を強化しています。

エネルギー

エネルギー使用量は、千葉工場、市川工場は前年度並み。香料工場は8%減少、淡路工場は39%の増加となり、全社では約1%の減少となりました。またエネルギー原単位は、千葉工場は2%悪化しましたが市川工場、香料工場、淡路工場が改善し、全社では4.4%の向上となりました。



PRTR

ベンゼンおよび1,4-ジオキサンの大気排出量は、共に前年度比約3%の減少となりました。排ガス処理装置が安定稼働しています。



廃棄物および再資源化

溶剤の再資源化は、3工場合計は、前年度比36%の増加となりました。千葉工場では、主に工場内で使用した廃溶剤を蒸留精製し、再資源化を行っています。2016年度は、3%減少となりましたが、千葉第一工場の再資源化率は98%以上と、高い回収率で推移しています。

素材産業としての責任 品質マネジメント・労働安全衛生

東洋合成工業は、製品開発から製造、物流、納品後の品質保証までを品質と捉え、品質マネジメントシステムの継続的改善に取り組み、お客様に信頼してお使いいただける製品の安定供給を目指しています。また、事業の基本となる化学物質管理と労働安全衛生には万全の配慮を行っています。

品質 マネジメント

東洋合成工業は、独自性の高い製品群に最適な管理を実施するため、感光材事業、化成品事業それぞれに品質保証部門を設け、それぞれの特性に合わせたマネジメントシステムを運用しています。

サプライチェーン全体での品質マネジメントを実施

当社の製品は、お客様のご要望に合わせて独自に開発されるものがほとんどを占めているため、製品ごとの特徴に応じた品質管理が必要です。基本的には、お客さまの求める品質に合わせて技術面でのすり合わせを行い、統計的なデータに基づく傾向管理、不純物管理を軸とする個別の品質保証体制を構築しています。さらに、製品の性質上、納品時だけでなく、最終製品の環境において安定した性能を発揮していなければなりません。当社では、要因を分析する際に4M + E(man、machine、method、material + E環境)という考え方を採用しています。人、機会、方法、原材料、そして環境要因のわずかな変化が品質に影響を及ぼすため、あらゆる側面からリスクを低減できる仕組みを整えています。また、品質保証体制については、独自性の高い製品群に最適な管理を実施するため、感光材事業、化成品事業それぞれに品質保証部門を設け、それぞれの特性に合わせたマネジメントシステムを運用しています。さらに、原料調達も品質に大きな影響を及ぼすため、重要なサプライヤーとのパートナーシップを構築。サプライチェーン全体での品質マネジメントを実施しています。

感光材事業の活動

継続的な品質のモニターによる傾向管理を徹底

感光材事業部の品質管理は、厳しい基準とお客様の要望にもとづくR&D活動を基本とし、継続的な品質のモニターによる傾向管理を徹底しています。逐次、詳細なデータを計測し、少しでも数値に特異的な変化があれば原因を分析。プロセスでの具体的な改善に活かすことで、より安定した品質を提供することが可能になります。しかし、改善活動について弊社だけで実施することはできません。改善のための微細な変更でもどのプロセス・品質に違った影響を与えるのか分からないケースが多く、潜在的なリスクを排除するために、改善した製品を一定期間評価していただいた上で、最終納品となるので、お客様との協業は不可欠です。

また、原料品質の安定は不純物管理と並んで絶対条件なので、重要なサプライヤーについては、お客様の基準に即し、品質、製造プロセスなどについての監査を実施しています。グローバルの化学物質管理法規制や、労働安全衛生に対しての化学物質管理は当然のこととして、当社では、最も厳しい要求に対応するため、日々、お客様やパートナーとともに取り組みを進めています。このような活動を評価され、お客様からベストサプライヤー賞も受賞しております。



執行役員 感光材事業部 感光材品質保証部 部長
多田 健太郎

化成品事業の活動

厳しい製造工程管理と品質検査により、安定した品質の製品を提供

電子材料用途の製品については、感光材事業と同じく傾向管理に注力しており、品質変動を少なくするための工程管理と厳しい品質管理を実施した高純度・低金属の溶剤を安定供給しております。お客様からの品質要求が高くなっていくのに合わせて、品質確認に重要となる分析技術の開発を進めることで、信頼性の高い検査データを提供しております。

香料材料については、フレーバー向けとフレグランス向けがあります。どちらも人が判定する「匂い」が品質で最も重要な項目となります。このため、純度などの客観的な数値が出てくる検査項目のほかに「官能試験」を実施しています。官能試験は、匂いの違いを判定できる社内認定を受けたパネラーが行っています。香料材料は機器分析や傾向管理での合格判定に加えて、パネラーによる官能試験が合格して初めて製品を出荷できます。そのため、品質検査部門の認定パネラーを2つの工場で増員するほか、製造部門でもパネラーを育成し、常に同じ匂いを表現できる安定した品質の香料材料を製造・供給してまいります。



化成品事業部 化成品品質保証部 部長
米山 信博

労働安全衛生

東洋合成工業では、労働安全衛生方針を掲げ、社長をトップとする環境安全委員会を設置し、各事業所の安全衛生委員会を中心に、安全を最優先とした事業活動を行っています。

労働安全衛生方針

1. 人命尊重の理念の下、必要な社内基準を設け、法令を遵守し、安全で働きやすい職場環境の創造を目指す。
2. 良好なコミュニケーションを社内・社外で展開し、社内外の関係者の安全と健康の確保に貢献する。
3. 「常に安全を優先します」を念頭に、全社員が一丸となって安全衛生活動を推進する。
4. 全従業員がそれぞれの立場で職場に潜む危険源の把握に努め、リスク低減に貢献する。

TOPICS

労働災害度数率

本年は、休業災害が0件であったため、度数率・強度率ともにゼロとなりました。休業に至らない小さな災害から無くしていくために、各拠点で積極的な安全活動を推進しています。

救命講習

非常時に備え、消防署および社内の有資格者による、心肺蘇生・AEDの使い方などの救命講習を開催しています。本年は、67名が普通救命講習を受講しました。



健康管理

本年の定期健康診断受診率は99.6%、有所見率については昨年より2.9%減の37.3%となりました。2017年度からは、社員の健康増進と生活習慣病予防のため、健康診断結果の段階別ケアをより綿密に行うとともに、健康保険組合と協力の上、特定保健指導も実施する予定です。また、メンタルヘルスについて、法定のストレスチェックを実施の上、希望者には産業医による面談を実施しました。また、ストレスチェック実施時以外にも、社員が気軽に安心して相談できる窓口を、社内外に設置しました。

人々の未来を支える責任 研究開発・社会貢献

東洋合成工業は世界最先端の技術と知見を活かし、地球環境や社会課題の解決に資する技術や製品の開発を通じ、持続可能な社会の構築に貢献します。

研究開発

「当社の生命線は研究開発にある」を理念に研究開発に取り組んでいます。常にお客様の声から、新しい技術や製品の種を見つけ、ともに可能性を追求し続け、感光材で培った高い技術をさらに進化させながら、エネルギーやナノテク、ライフサイエンスなどの分野にも応用展開しています。

研究開発体制

3拠点、50名以上の研究開発組織

研究所では、顧客ニーズや市場動向、技術動向を踏まえて、最先端の研究開発を行っており、新製品の創出・競争力の強化をはかっています。

国際社会での市場は、既存の領域に関しては中国・インドなどが、製造コストや原材料などの調達など全てにおいて有利な状態であり、日本企業にとって厳しい競争環境になっています。当社としては、より高性能かつ、オリジナリティーのある技術・製品を開発する必要があり、将来の予測にもとづき、潜在的なニーズに対応していく方針のもとで、新しい技術の可能性を追求しています。我々の研究開発のテーマの多くは、お客様とのコミュニケーションから生まれます。日常的に営業に同行し、提案活動を行うことも多いので、言葉の端々から、ヒントを得て、マーケットを予測し、より現実的な開発に活かしていきます。さらに、純粋に研究的な差別化だけでなく、知財的な観点での独自技術の守り方やノウハウの使い方を含め、事業化し、適正な利益をあげていくためのさまざまな施策も行っています。

また、研究開発分野にもリスクヘッジが必要です。主力となる感光材分野は景気の動向などに左右されやすい傾向があるので、より必須なもの、人間にとって欠かせないものへの市場も確保しておく必要があります。テーマの出口も、バリエーションを持たせるようにレイアウトして、限られたリソースを有効に活用するために時間的にも製品化するタイミングがずれるようにアレンジするなどの取り組みを実施しています。そして、もう1つは低炭素社会への貢献です。二酸化炭素の排出を少なくする技術はもう開発、基礎研究の段階で行っています。今後は、研究員の個性やキャリアプランなどを組み合わせながら、より有機的に連携させ、持続可能な社会に貢献する研究開発に取り組んでいきたいと考えています。



取締役 感光材研究所 所長
宮澤 貴士

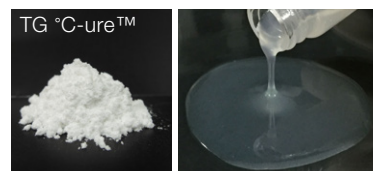
TOPICS

Cell-able®

癌細胞などに対する医薬品の開発においては、人工的に生体内、生体に近い細胞組織を出来る限り再現する必要があります。Cell-able®は、弊社が感光材で培った技術を医薬開発の培養分野に応用した製品で、癌細胞やips細胞などの生存と機能の維持に必要とされる3次元構造を容易に形成。これらの細胞と血管内皮細胞などの細胞との共培養を可能にした細胞培養用プレートです。3次元化することにより、最適なサイズで制御された再現性の高い細胞を実現し、現在、グローバルに60以上の製薬企業、大学等の研究機関で利用されています。

TG °C-ure™

接着剤の熱硬化剤で、最近では自動車や航空機、電子デバイスなどチップ接着用に採用が検討されています。独自の構造により、従来品の欠点、膜が汚れや、接着強度が思うように出ないという課題をかなり高いレベルでクリア。均一性が高く、接着強度が強いため、自動車など、軽量化でCFRPなど炭素繊維と金属のなど異種接合の改善に採用され、軽量化およびCO₂削減への貢献が期待されています。



社会貢献

東洋合成工業は、企業市民として社会に貢献し、地域社会と歩みを共にすることを重要と考えています。社会から信頼される企業を目指し、地域住民や団体との積極的なコミュニケーション活動に取り組んでいます。また、地域コミュニティを中心に、次世代を担う子ども達の成長を支援するため、職場体験などの機会を提供しています。

TOPICS

仕事体験プログラムの提供

千葉工場と感光材研究所では、地域の小学生や中学生向けの仕事体験プログラムを提供しています。子供たちにとって、社会における各職種の役割を学び、将来の仕事や学校で学ぶことの意味について考える場になればと思っています。

研究所にて、印西市立印旛中学校の生徒が感光材を使った実習を体験



千葉工場にて、東庄町の町立東城小学校の生徒が工場で実際の作業を体験

「東庄ふれあい祭り」に出店

千葉工場では、毎年、東庄町の笹川小学校で開催される「東庄ふれあいまつり」に出店しています。昨年2015年で連続12回目の参加となりました。地域住民の皆さまと信頼関係を築くためには、交流の機会を積み重ねることが大切です。千葉工場は、今年も引き続き参加を予定しています。



出展ブースにて風船や抽選賞品を配布
当社参加メンバー

地域清掃活動

千葉工場、香料工場、淡路工場では、毎年、夏季および冬期休暇前に工場周辺地域の清掃活動を行っています。今年は、千葉工場では夏季74名、冬季75名が、淡路工場では従業員の約半数の13名が参加しました。



千葉工場の夏季清掃活動

社員への取り組み 人材・ダイバーシティ

東洋合成工業にとって、社員は最も重要な資産であると考えています。経営理念、経営戦略の実現に向けて、社員一人ひとりがイキイキと働き、社員と会社がともに成長し続けるための環境づくりを目指しています

人材・ダイバーシティ

東洋合成工業は、人材戦略プロジェクトを2015年6月からスタート。
「社員がチャレンジングな仕事にやりがいを持って力を発揮し、
人材育成を支える人材マネジメントシステム構築、運用の充実」に取り組んでいます。

人事基本方針

01 チャレンジ精神

チャレンジ精神を持って、困難を乗り越え革新的な成果を出した社員を評価し、
正当に処遇していく

02 積極的な人材育成

自らのキャリア開発に向けて、積極的に自己研鑽に励む社員を支援する

03 オープン&フェア

客観的かつ公平で高い納得性が得られるようオープンに推進する

04 安心して働ける職場環境

社員が安心して働ける環境を整えていく

行動指針

01

常に安全を
最優先します

02

新たな発想で
価値創造に
チャレンジします

03

現場・現物・現実に
基づいて
課題を解決します

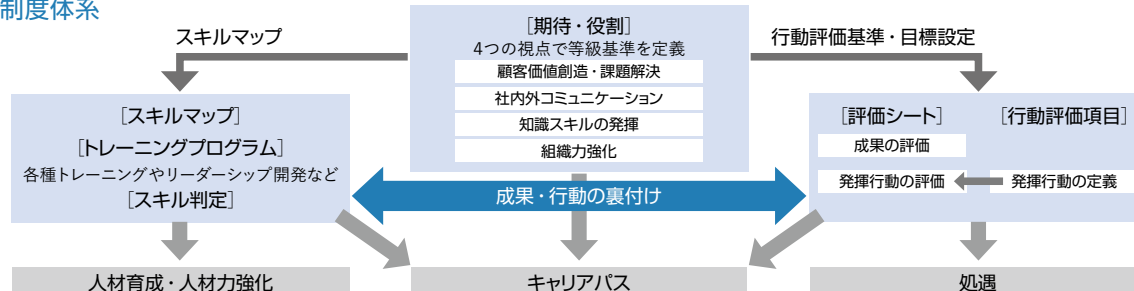
04

個人とチームが
共に成長します

05

お客様の感動を
創りだし、
信頼を勝ち取ります

人事制度体系



持続可能な成長のベースとなる新人事制度

2016年11月、事業環境の変化に対応し、次世代の持続的な成長を実現するために、経営方針と行動指針を見直すとともに、新人事制度を導入しました。新人事制度では、当社が事業を継続し、持続的な成長を実現するためには、どのような人材が必要で、その人材にどのような行動、価値創造を期待するのかという観点から設計されており、具体的な5つの行動指針に集約しました。人事制度の評価の軸にも落とし込み、より実効的な成果に結びつけられるよう取り組みを進めています。

今年度は、制度の全体像をリリースし、まず求められる役割、能力を明確にする「等級ポリシー」を軸に、等級に求められる期待、役割を整理しました。さらに、評価、報酬、人材育成、福利厚生の4つポリシーを踏まえ、顧客価値の創造、課題解決、社内外コミュニケーション、知識・スキルの発揮と強化を全社員が達成していくことを目指しています。今期は制度の理解と以降運用を丁寧に行っていく事に注力しました。特に、上司がメンバーとしっかり向き合い、メンバーの育成と仕事のやりがいを高められるようにコミュニケーションの強化を図っています。



執行役員 人材総務部 部長
水戸 智



新規事業プログラムの様子

TOPICS

教育体系

求める人材像の計画的な育成を目指し、教育研修体系の再構築を進めています。

また、次世代リーダー育成強化のため選抜型プログラムとして、新規事業創出プログラムをスタートしました。その他のプログラムに関しても更なる充実を図り、キャリア開発、リーダーシップ開発プログラムをはじめ、役職や目的別、専門技術アップのためのプログラムを拡充していきます。

新入社員研修

新入社員が入社し、1年間は製造現場での実習を基本としており、モノづくりの現場を実際に経験します。また、OJT担当者が日々の業務を通じて専門的スキルや、企業人としての視点・考え方・態度・行動基準を教えていきます。教育計画や、教育実施記録、3か月に一回の育成面談を行い、1年後には経営陣に対して成果発表会を行い、しっかり時間をかけて、育成しています。

マネジメント研修

新人事制度の導入にともない、管理職に対して、マネジメントの役割再確認および、制度を運用していく上で必要となる目標管理から評価までのフィードバック、コミュニケーションについての研修を実施しました。

さらに、人材育成という観点から、キャリアパスやスキルの棚卸しや、コミュニケーション方法についての研修を実施しています。人事制度導入研修については全社員約600名に実施し、制度の理解と定着に向けて取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランス

東洋合成工業は、創業以来当社で働くことを通じて、自己成長や人生の夢を実現してほしいという考え方がベースにあり、従来より所定労働時間が7時間15分という時短を進めています。さらに、社員の働きやすさを配慮し、安全な職場、一人ひとり多様な生活スタイルに対応する個人を尊重した勤務体系の構築を目指しています。「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向け、労働組合・従業員代表との定期的な労使協議を年間4回以上実施し、柔軟な勤務制度・環境の整備に取り組んでいます。

育児介護休暇制度

当社では社員の育児・介護をサポートする制度を導入しています。育児休業は、最大2歳になるまでの期間を取得できる制度としています。また、男性の育児参加を促進するため、男性の育児休業取得を推進しています。今後は、短時間勤務の拡充など、より柔軟な対応を検討していきたいと考えています。

イキイキ職場づくり

東洋合成工業では、多様な人材がイキイキと活躍できる活力ある職場づくりを目指しています。

2013年から毎年、全社員に対して職場や社員の活性化に関する調査を行い、職場の状態や課題等を定点観測し、今後の施策展開につなげています。また、調査結果は、各部門に対してフィードバックを行い、実行中の施策の継続的な推進を図っています。

マネジメント強化

役員・管理職を対象に360度フィードバックを実施し、組織目標の達成と管理職の育成のためのツールとして活用しています。また、その結果を踏まえた教育プログラムを展開することで、マネジメントの向上に取り組んでいます。

GLTD

安心して働いていただける環境づくりの一環として、万が一業務上就業が困難になった場合、所得を補填する保険を導入しています。2016年度は50%を超える社員が加入しています。

ダイバーシティの推進

東洋合成工業では、各組織で多様な人材が活躍し、さまざまな視点やアイデアが融合される環境の醸成を重要な経営戦略の一環と考えています。

女性や高齢者、外国人の活躍推進、障がい者雇用に対する理解・支援など、さまざまな活動を展開・強化し、職場の活性化と組織力の向上に取り組んでいます。

女性管理職

3年以内10%（現状3%）

新卒採用の女性比率

13%から20%

再雇用率

100%

人権への配慮

東洋合成工業では、国際基準に則った人権に対する配慮はCSR経営の基盤であると考え、世界各国・地域の文化、伝統、慣習の理解に努め、国際的基準を支持した人権を尊重することが重要であると考えています。

職務に関し、人種、性、宗教、信条、国籍、その他非合理的な理由により差別することやハラスメントを明確に禁止行為として定め、その行為者に対しては懲戒する旨を定めています。

人権に関する教育については、新入社員および中途入社社員に対して、入社時の導入研修でコンプライアンス研修を行うとともに、全社員に対し、2年に1度継続して実施しています。また、コンプライアンスに関する相談・申告窓口やハラスメント相談窓口を社内外に設け、人権侵害に関わる事態が発生した場合にも、その情報を迅速に把握して適切な対応を取ることができる体制を整えています。

〒111-0053

東京都台東区浅草橋1丁目22番16号

ヒューリック浅草橋ビル8階

人材総務部 広報IR課 03-5822-6170

■ 千葉工場

〒289-0623

千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号

■ 市川工場

〒272-0012

千葉県市川市上妙典1603番地

■ 香料工場

〒289-0623

千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号

■ 淡路工場

〒656-2225

兵庫県淡路市生穂新島9番1

■ 高浜油槽所

〒272-0125

千葉県市川市高浜町7番地

■ 感光材研究所

〒270-1609

千葉県印西市若萩4丁目2番地1

■ 西日本営業所

〒532-0003

大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番45号

新大阪八千代ビル10階

■ 中国・上海事務所

■ オランダ・ロッテルダム倉庫